第5回宇陀市学校適正化推進委員会議事録【概要】

R4.10.28 18:00～20:00

宇陀市役所 大会議室

1 開　会

2 事務局挨拶

3 議　事

(1) 子どもに最適な教育環境を創るための適正化の具体案の検討について

ア 山本委員長より、学校適正化のたたき台の提案 資料1

第4回推進委員会での議論を受けて、各推進委員から事前に提案いただいた学校適正化の具体案を、事務局と共に拝見した結果、大きく3つのパターンにまとめることができた。各委員の案の全てを網羅することは難しいが、今日はこのたたき台を基に議論いただきたい。

イ 事務局より、関連する用語についての説明 資料2

ウ 意見交換

・各学校の学級数、収容できる児童生徒数や維持管理する上での状況は、一つの判断基準になるので教えていただきたい。

・建築年が新しい順に、小学校が大宇陀小、菟田野小、室生小、榛原東小、榛原西小、榛原小、中学校が菟田野中、榛原中、大宇陀中、室生中となっており、大宇陀小と菟田野小は廊下の広いオープン形式の教室になっている。現在使用できる学級教室の数は、大宇陀小12、菟田野小10、榛原小17、榛原東小15、榛原西小9、室生小8、大宇陀中11、菟田野中9、榛原中24、室生中12となっており、大宇陀小のみ35人対応の教室の広さとなっている。

・前回の話を聞いて、大宇陀でも協議会を作ろうと頑張っている。コミュニティ・スクールの導入が全国で進んでおり、宇陀市でも地域が学校に入り込んでサポートしていく必要がある。特色のある学校として、広島県福山市立常石小学校が、イエナプランという独自の教育課程を取り入れている。学校の統合というとどうしても消極的な施策になるので、地域創生と絡めて豊かな教育を行うために、ボトムアップだけでなく、行政からのアプローチも必要ではないか。

・文科省も多様な学校を認めているが、地域や学校がそれに追いついていない。室生学校協議会では、小中一貫校や学校選択制の話が出ているが、室生だけが生き残りたいからではない。市全体で考えていかなければ、いずれ市全体が沈んでいく。学校が地域の中心拠点として生まれ変わり、宇陀の風土や文化を発展させるためにオール宇陀で取り組む必要がある。

・少人数で学習したほうがよい子どももいると思うが、高校に進学したとき苦労するのでは。特色のある学校云々の前に、財政的に宇陀市が存続できるかが心配であり、そういう意味では小中一貫校も考えられる。また、子ども自身は今の学校をどう考えているのか。就学前の子どもをもつ保護者の意見も、まだ一度も聞いていない。将来のことを考えるのであれば、そういう調査も行ってまとめていただきたい。

・前回も提案したが、今後、各地域で特色のある教育を行ったとして、義務教育の9年間で宇陀の子どもがすべての地域の教育を経験するという仕組みは作ることができないのか。

・現在でも、個々の子どもの実情に応じて、特別支援学校や指定校以外の学校への就学ができるのだから制度上は可能かもしれないが、学習環境が頻繁に変わることが、子どもにとって本当にプラスに働くのかという心配がある。

・コミュニティ・スクールの話が出ていたが、宇陀市には高齢者が多いので、地域の高齢者も学校を利用して、子どもと一緒に学ぶことができる学校をつくってはどうか。

・松阪市立香肌小学校も、コミュニティ・スクールとして、地域の人が学校に入り込んで協力する様子がSNSでアップされている。また、この学校では親子山村留学も推進し、住民増を図っているので、宇陀市も教育委員会だけでなく、他課と協働して進めてほしい。

・小中一貫校について、新たに施設を作らなくても既存の施設で行えるし、義務教育学校では校長が一人になるので、スムーズな意思決定にもつながると思う。また、義務教育学校は学年の区切りを6・3制にする必要はないため、市内で学年の区切りを統一しておけば、途中で他地域の義務教育学校に通いたいと思った場合でも、スムーズな転校が可能になる。

(2) その他

・連合自治会の役員会等で、事務局から現在の学校適正化推進委員会の状況を説明していただけないか。また、最近、宇陀でも移住を希望する外国人が増えているが、そういう人が住みやすい町にするために、担当課が話をよく聞く施策をお願いしたい。

●事務局から

・これまでの推進委員会を通して、学校や地域の方が協力しながら協議されていることは大変うれしく思う。その中で出された、デメリットの克服のための取組や特色のある取組について、今からでも取り組めるものは取り組んでいただきたい。

・今回、各委員の案を基に、学校適正化の3つのたたき台が示された。これらのたたき台を基に、残りの会議で宇陀市学校適正化の具体的な姿を答申していただく必要がある。

・そのために、これまでは各組織の代表という立場での発言が多かったと思うが、今後は、宇陀市の子どもの教育環境をよくするにはどうあるべきかという視点を中心に、各委員個人としての意見を述べていただきたい。

・その際、10年、15年後も持続可能な取組であること。また、少人数指導の限界も同時に考えていただきたい。

・推進委員会は、教育委員会が諮問したことについて審議を行い、意見として答申するものであり、答申を受けて、最終的には教育委員会が学校適正化の計画を立てる。

〇委員長のまとめ

・学校適正化をまちづくり等他の政策と絡めることを答申に盛り込むことで、教育委員会事務局の背中を押すことになる。

・本日は、最初に3つの適正化のたたき台を出したところ、非常に幅広い発想で、かつ建設的な意見が出された。小中一貫、義務教育学校、複合施設やさらに独創的な案が広がった。しかし、何らかの形で適正化を図っていくことは、これまでの議論から引き継がれている。本日の議論も踏まえて、夢のある、しかし、現実味のある答申に持っていく必要がある。よって次回は、本日示したたたき台の3つの案のどれを軸に考えればよいか議論を深めていきたい。

4 連絡事項

・次回の第6回宇陀市学校適正化推進委員会は1月23日（月）18時から宇陀市役所大会議室で開催予定。

5 閉　会